
三岩岳山スキー

杉崎 圭洋

- 山行年月日:2019年3月10日
- メンバー:外島正明 杉崎圭洋
- コースタイム:登山口(6:30)～避難小屋(10:30)～三岩岳山頂(11:20)～避難小屋昼食(11:55)～登山口(13:45)

桧枝岐村が近くなるにつれて道路脇の雪も多くなってきた。会津若松には今年ほとんど雪が降らず毎日の生活はとても楽だったのだが、山スキーは終盤の様相である。天気は微妙だったが、低気圧の通過が遅くなるようなので、少ないチャンスを掴むために前半勝負で会津若松を4:30に出発して来た。

目的地に着くと車は一台もなかった。準備を済ませ登山口を出発する。風も穏やかで抜けるような青空の下、前々日に降った10cmぐらいの雪に残っているトレースを利用して順調にシール登高する。1300mを超えてブナ林が疎らになると雪が直射日光を浴びて、べた雪になってきた。シールワックスが不十分で雪がぼっこになってくっ付いてくる。ストックで叩き落としたりするが、徐々に効果がなくなり板をはずしてシールワックスを塗り直す。天気は予想以上に良くて気分は最高だが、帰りの滑りは期待出来ない。なんとかシールも復活して主稜線の鞍部に到達した。風が強くなりジャケットを着るが、雲はまだ少なく天気は持ってくれそうだ。雪の中から屋根が少し出てきた避難小屋を通過して頂上



まであと少し、外島さんによると頂上まではあと45分で、ここでやめる人も結構いるとの事、疲れもたまってきたところで斜面もゆるい割には時間もかかり納得である。あまい誘惑には負けずに11:20三岩岳山頂に到着。360度のパノラマを満喫した後は撮影会となり、リニューアルしたホームページ映えを目指してツーショットで締めた。昼飯を食べるにはちょっと寒いので避難小屋まで滑り昼食する事になった。頂上付近は気温が低く雪もなんとかかなりそうなレベルで慎重にエッジを切り替えながら避難小屋に到着、ちょこんと出た屋根に腰かけて昼食をとる。日差しでトタン屋根が温かくなっていて気持ち良い。仕切り直して滑降開始となったが、どんどん雪が重くなり板の滑りも悪い。主稜線から分岐する手前で本日初の別パーティースライドする。分岐を過ぎるとブナ林で日陰になるところは板が滑るので林の中を狙ってすべるが、調子にのっているとストップ雪でつんのめりそうになる。終盤のやせ尾根から急斜面も何とか滑り登山口に戻った。